




小学校の新しい教科書

教育長 渡邊 尚人

新年度がスタートし、子どもたちもやっと学校に慣れてきたところに、春のゴールデンウィーク10連休が続きました。学校では、子どもたちの生活態度や言葉遣いの変化に注意しながら、日頃の授業やさまざまな活動に努力されていることと想います。心から感謝申し上げます。

さて、年号も「平成」から「令和」に変わり、新しい時代の始まりを感じさせてくれます。学校教育においては、新しいことの一つに新学習指導要領の実施に伴い改訂される「教科書」があります。先日、令和2年度から小学校で使われる教科書の検定結果が公表されました。一部の新聞には以下のような見出しがありました。

「小学校教科書 ページ1割増 対話式の記述増・板書例も」、「教科書 先生に親切設計 若手が増加 指導手助け」（朝日新聞）、「小学校教科書、英語初検定 ページ10%増 深い学び促す」、「深い学びにつながるか、授業法 手取足取り 指導の画一化に懸念も」（新潟日報）

新学習指導要領では、グローバル化や人工知能などの技術革新により社会が大きく変化する時代を生きる子どもたちが、予測できない変化に主体的に向き合い、自らの可能性を發揮し、よりよい社会を創っていける力を育成するため、「主体的・対話的で深い学び」を重視しています。

一方、学校現場では、生徒指導上の問題、若手教員の増加、時間外勤務の増加など様々な課題への対応に迫られています。子どもたちに分かりやすく、教師に使いやすい教科書は、これらの状況からみて必要なものですが、教師が教材研究を怠ることにならないよう願っています。

「そんなことあるわけがない。」と思ったら「正常性バイアス」を忘れずに！

管理主事 濱田 晴明

「そんなことあるわけがない。」「ない、ない、絶対ない。」という会話が教職員内であったら、以下のことを参考にしてください。

学校では、様々な問題が起きています。しかも、**これまでには考えられなかった事件・事故**が起きています。その対応で精神的に疲れている教職員も多いです。その精神的な疲れを回避するために、脳の働きである「**正常性バイアス**」が、**自分にとって都合の悪い情報を無視や過小評価**します。つまり、**重大な事件・事故を正常の範囲内と判断**します。

さて、学校における危機管理の最大の目的は、児童生徒等及び教職員の生命や心身等の安全を確保することです。しかし、「学校は、『**正常性バイアス**』が過剰になり、非常時への対応が制度的に遅れる。」という指摘があります。東日本大震災における逃げ遅れの原因の一つとなったのがこの「**正常性バイアス**」です。日頃の安全確保や起きた事件・事故の被害を最小限にするためには、「**そんなことはあるわけがない。**」と考える脳の「**正常性バイアス**」が、**非常事態には賢明な行動の妨げになることを認識しておくこと**が重要です。認識しておくことで、非常事態に「**マニュアル以外にもすべき行動があるのではないか。**」と**冷静**に考えられるそうです。

冒頭の会話があつたり似たような思考が働いたりしたら、「**正常性バイアス**」を思い出し、冷静になって「**もしかして**」と考えて対応してください。「**そんなことあるわけがない。**」が「**まさか。**」にならないために、ぜひともお願いいたします。

振り返り活動の充実を

指導主事 後藤 修治

新学習指導要領の全面実施が間近となってきました。各校における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の取組に感謝申し上げます。

文部科学省は、「主体的な学び」の実現について、自己の学習を振り返って次につながる学習活動を重視しています。また、県教育委員会も、学校教育の重点において、児童生徒が主体的に学習活動に取り組めるようにするため、すべての教科等で、見通し・振り返りの学習活動を取り入れることを授業改善の視点としています。

佐渡市教育委員会では、今年度の学校支援訪問における授業参観の視点を昨年度同様に次の3点とします。

- ①授業のねらい達成に向けた課題の設定、提示がなされているか。
- ②課題と正対したまとめとなっているか。
- ③次時につながる振り返り活動が設定されているか。

さて、「振り返り活動」とは、何を振り返ればよいのでしょうか。新潟大学教育学部の阿部准教授は、「振り返り」の意義を「問題解決能力、批判的思考、コミュニケーション能力といった、一般的、汎用的な能力の育成」と述べています。そして、「『振り返り』は、課題解決プロセスを反省して、汎用的能力を方法知として構成するもの」としています。

このことから、「振り返り」とは、「自分の学習の仕方や学びによる変容・成長について内省すること」と言えます。「振り返り」の頻度は、毎時間であったり、次や単元終了時であったり教科領域等の特性に応じた設定でよいかと思えます。大切なのは、年間を通して継続していくことです。

今日行くから、教育

教育指導主事 大谷 直治

「先生が初めて話を聞いてくれたことをずっと覚えています。あの時のお陰で苦しむ我慢から解放され、今楽しく生活ができています。」

これは、いじめが原因で不登校になった生徒が、大学生になってから送ってくれた手紙の一文です。

平成29年度佐渡市のいじめ認知1000人当たり14.7人(全国74.6)。不登校1000人当たり、小学校11.4人(全国5.4)、中学校46.2人(全国32.5)。

学校に関係する全ての人の力を合わせ、“最近表情が暗いな”“いじめかな”等感じたら、本人に声掛けし、管理職(特に校長)に一報を入れましょう。

『報告・連絡・相談』は、教育現場こそ必要です。校長は、その後の状況を『確認』することで、児童生徒の安心安全につなげることができます。

今年度、県教委は義務教育課と高等学校教育課を結びつけ、新しく『生徒指導課』がいじめ・不登校対応を担当します。未然防止・早期発見及び支援のために、小学校を含む全校にスクールカウンセラーを配置することになりました。カウンセラーは、部屋で待つのではなく、積極的に児童生徒の活動場所に行くことから支援を始めます。

“動いている船は沈まない”とても好きな言葉です。粘り強く、児童生徒に関わることで途は開かれると思います。心を痛める児童生徒のもとへ、明日ではなく今日行きましょう。



職員の異動のお知らせ

学校教育課「管理・指導部門」では、今年度次のとおり職員の異動がありました。

<退職> 教育指導主事 山岸 善晴 教育指導主事 大山 誠

<新任> 教育指導主事 大谷 直治 (前新穂中学校長)
教育指導主事 渡部 栄二 (前金井中学校長)

